

事務事業マネジメントシート(平成26年度実績と平成27年度計画)

平成28年 2月17日 更新

事務事業名		翔陽高校線路線バス運行事業					☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政策	1	人々が安全に安心して暮らせるまちづくり				所属部	政策部	課長名	澤田 勝矢
	施策	4	公共交通の充実				所属課	企画課	担当者名	吉田 健悟
	基本事業	12	公共交通の利便性の向上				所属班	企画広報班	(内線)	1254
予算科目		会計一般	款2	項1	目11	事業連番11466	法令根拠	成果優先度評価結果 : ⑪ コスト削減優先度評価結果 : ⑥		
終了、開始年度		☐ 26年度で終了 ☐ 26年度から開始					事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 21 年度) ☐ 期間限定複数年度 (~ 年度)		

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】	熊本電鉄のバス路線再編計画に伴い、当該路線(花立車庫～すずかけ台・竹迫経由～翔陽高校行き)が平成21年3月に廃止された。 当該路線バスの利用者の大半が合志市在住の生徒であり、廃止されれば通学手段がなくなることから、平成21年4月から市が実施主体として「武蔵ヶ丘北口～すずかけ台・竹迫経由～翔陽高校」(1往復/日)の路線の運行を開始した。現在は「御代志～新地団地・すずかけ台・竹迫経由～翔陽高校」(1往復/日)の運行を実施している。 運行形態としては、熊本電鉄線に運行委託を行い、一般路線バスとして一日1往復、高校の授業(年間約220日)に合わせて運行している。※高校生以外も利用可能。 (経緯) 平成21年度:「武蔵ヶ丘北口～すずかけ台・竹迫経由～翔陽高校」(1往復/日) 平成22年度:新須屋まで路線延長及び復路を1便増便(往路1便、復路2便) 平成23年度:路線等変更なし 平成24年度:御代志駅まで路線延長及び復路を1便減便(1往復/日) 平成25年度:路線変更等なし 平成26年度:路線変更等なし
(開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	
【業務の流れ】	運行計画の策定、運行契約と実施、運行費の算定・支払いなどに係る事務手続きを行なう。
【主な予算費目】	委託料
【意見や要望】	・利用者からは、通学手段として重要であり、廃止は困るとの意見があった。 ・翔陽高校からは、通学手段がなくなれば合志市内から入学を希望する生徒にとっても影響は大きいとの意見があった。 ・沿線の他自治体(熊本市、菊陽町、大津町)は、利用者のほとんどが合志市民であることや、自身の交通網には影響が少ないとの判断により、事業への参画はできないとの意見である。
関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分
① 手段(主な活動) 26年度実績(26年度に行った主な活動)(DO) ・御代志駅～すずかけ台・竹迫経由～翔陽高校バス停までの路線バスを運行した。運行便数は1日2便(1送1迎)であった。		27年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN) ・当該路線の廃止
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由
→ ア 年間運行便数	便	・利用者増を想定した運賃収入増による委託料の減
イ		
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等		② 対象指標(対象の大きさを表す指標)
・翔陽高校へ通学する本路線バス利用者		→ ア 年間利用者数
		イ
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		③ 成果指標(意図の達成度を表す指標)
・安全に、かつ安心して通学できる。		→ ア 計画運行便数に対する実運行便数の割合(自然災害による運休を除く)
		イ
*③成果指標設定の理由と27年度目標値設定の根拠		総トータルコスト
・対象を安全、安心して通学(移動)できることが意図であることから、計画運行便数に対し実運行便数の割合(自然災害による運休を除く)を設定した。		全体計画
		～ 年度
		0

(2) 各指標・総事業費の推移											
		単位	24年度 実績(決算)	25年度 実績(決算)	26年度 目標(当初予算)	26年度 実績(決算)	27年度 目標(当初予算)	予定	見込	見込	
① 活動指標		ア 便	420	418	404	404	420				
		イ									
② 対象指標		ア 人	5,851	5,477	5,500	4,179	5,500				
		イ									
③ 成果指標		ア %	100	100	100	100	100				
		イ									
投資 入費 量	事業 費 内 訳	国庫支出金	千円								
		都道府県支出金	千円								
		地方債	千円								
		その他	千円								
		繰入金	千円								
		一般財源	千円	1,216	1,245	856	1,335	1,415			
	(A) 事業費計	千円	1,216	1,245	856	1,335	1,415				
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0			
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0			
	人件 費	正規職員従事人数	人	2	2	2	2	2			
		延べ業務時間	時間	50	50	50	25	50			
		(B)人件費計	千円	203	199	199	99	199			
	トータルコスト(A)+(B)		千円	1,419	1,444	1,055	1,434	1,614			

事務事業名	翔陽高校線路線バス運行事業	所属部	政策部	所属課	企画課
-------	---------------	-----	-----	-----	-----

2 評価の部（SEE）

*原則は26年度的事後評価、ただし複数年度事業は26年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①26年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	☒ 達成した ☐ 達成しなかった ⇒【原因】
	②27年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 ☐ 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 翔陽高校及び運行事業者と連携し、安心・安全輸送に努めた運行と利用者の増加への取り組みの検討。
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになってないか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由】 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】 現状のまま事故なく運行することが目的であるため。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある（具体的な手段、事務事業） ☒ 他に手段がない ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 レターバス→JR光の森駅→JR肥後大津駅→翔陽高校という通学方法も考えられるが、定時制の確保の問題から現実的ではない。
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 現在2便（1送1迎）であるため、これ以上減便はできない。また、現状では大幅な利用者の増加は見込めないため、運賃収入が上がりず事業費の削減は困難である。
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？（アウトソーシングなど）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 運行に係る事務のみであり最小限の人員である。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 熊本電鉄の路線バスとして運行しており、学生のための利用ではないため。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】 公共交通機関の維持存続は市で担い、市民は公共交通機関を利用することで役割を担う。

3 評価結果の総括（SEE） ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

学校側の方針に「部活動への参加」があるため、部活終了（下校）時間と帰宅便ダイヤ調整が困難であることが利用者増加に繋がらない一つの要因であるが、学校側と連携して利用促進の取り組みを検討したい。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（PLAN）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可				(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)																								
☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善（有効性改善） ☐ 事業のやり方改善（効率性改善） ☐ 事業のやり方改善（公平性改善） ☒ 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）				<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">コスト</td></tr><tr><td>削減</td><td>維持</td><td>増加</td></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>						コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○		維持				低下			
		コスト																										
		削減	維持	増加																								
成果	向上		○																									
	維持																											
	低下																											
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策																												